

# 九条の樹 69号

2017年10月発行



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」  
連絡先： 042-473-9489（鈴木）  
ホームページ：<http://higashikurume-9.net>  
メール：[higashikurume9@jcom.home.ne.jp](mailto:higashikurume9@jcom.home.ne.jp)

日本国憲法 第9条  
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

## 安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名スタート

安倍首相は、今年の5月3日に突然「新たに憲法9条に自衛隊を書き込む」「2020年に新憲法施行をめざす」とのべました。戦後70年以上にわたって、日本が海外で戦争をしてこなかった大きな力は憲法9条の存在と市民の粘り強い運動でした。今9条を変えたり、新たな文言を付け加えたりする必要は全くありません。私達は、日本が再び海外で「戦争する国」になるのは「ごめんです。私たちは、安倍首相らによる憲法9条などの改悪に反対し、日本国憲法の民主主義、基本的人権の尊重、平和主義の原則が生かされる政治を求めます。」

# 安倍9条改憲NO!

以上は安倍9条改憲NO!全国市民アクションがスタートさせた全国統一署名の文面です。「市民アクション」は戦争法に反対する「総行動実行委員会」がより広い国民の運動団体として立ち上げられたものです。戦後憲法施行後すぐアメリカの政策転換により、憲法改悪、特に9条改定に向けた動きがすすめられてきました。保守合同以来憲法9条改定は保守勢力の悲願でした。

その後国会が解散され、改憲勢力は、第二保守党といわれる小池新党を合わせて、国会の3分の2確保をめざしています。このたくらみを打ち破るため、市民の世論で包囲して暴挙をストップさせましょう。署名にご協力をお願いします。

3000万の声を届けよう!

東久留米「九条の会」

# 南部九条の会 「憲法カフェ」

東久留米南部九条の会で、毎月行われている「憲法カフェ」について紹介します。

年々日本国憲法の第九条はながしるにされて来ました。北朝鮮からミサイルが頻繁に発射されるようになって、この大切な「九条」がますます軽くなるのではと、私はとても不安に感じます。毎日の報道は今にも戦争が始まるかのようです。日本は絶対戦争を起したり戦争に協力したりしないで外交や対話に力を入れてほしいのです。もう一年前になるでしょうか、「九条の樹」を配布して下さっている方から「家で『憲法カフェ』と言って憲法の勉強会をしているんですよ、来てみませんか」と誘われました。

中学高校時代に憲法について学んだ時は、日本はずばらしい憲法を持てたのだと誇りに思いましたが、

以後、憲法について勉強したことはありませんでした。今こそ現憲法を良く知る機会がもしれないと、おそろおそろ伺いました。皆さんとても楽しい方ばかりで、意外とすんなり溶け込むことができました。

おいしいコーヒーとお菓子をいただきながら、「日本国憲法」自民党改憲草案」を一条ごとに比較しながら読み、話し合っています。また分かり易く解説して下さる方もいて私などは「あーそうなのか」ととても勉強になります。

現憲法は国民を守るためのものであり品格があると思います。が、「自民党改憲草案」は上からの目線が感じられてなりません。

集まる方々はそれぞれ考え方は違つてでしょうが、九条を守りたいという点は一致し、頼もしく感じています。

(猪狩雅代)



# 「この世界の片隅に」 上映に500名

8月29日成美教育文化会館で上映されたアニメ「この世界の片隅に」に500名が来場しました。

舞台になつたのは、広島と呉、当時の様子が細かく描写されています。主人公すずさんが、たんたんと生きていく姿が描かれていて、派手な戦闘シーンこそありませんが、犠牲になるのはいつも弱い人たち、戦争の悲惨さがひしひしと伝わってきました。

同じ時代を体験した方や、若い方など、感想が多数寄せられましたので、紹介します。

○87歳の私はこの映画の時代を、愛知県にあった海軍の飛行場で、特攻機の整備として航空機工場に入社し、養成士として寮で動員学生や整備兵と共に過ごしていました。戦争の悲惨さを経験した者として、戦争放棄と平和を心から願っておりますが、今日の映画、広島、呉を舞台としてよくできたアニメだと思いました。

○おだやかな世界と道を外れた世界との対比が見事です。戦争映画、反戦映画はどうかすると激しく非をとなえた方が受けますが、そこはかとないユーモア、日常性の中にひそむ悪、怖さの方が実は恐ろしいのではないのでしょうか。その状態の中で、感じる力を育てておかなければ、何度も同じ過ちを繰り返すことに



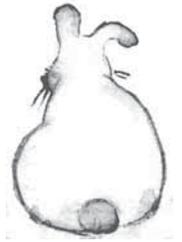
か。その状態の中で、感じる力を育てておかなければ、何度も同じ過ちを繰り返すことに

なるのではと思います。(70以上)

○もっと多くの人に見てもらいたいです。その当時の生活(私の子ども時代)を今の子どもたちに見せたい。きびしい時代でしたが、おにのような日本社会の中で平和にいっしょうけんめい生きることが教えてくれました。また、戦争の悲惨さもすっかり見せてくれました。ここに出てくる人々の言葉も重い意味がありました。もっと見てほしい。(70以上)



○上映に感謝します。以前から評価の高い作品と伺っていましたが、想像をはるかに超えた作品に出会えました。身近にこういう機会をつくることって大変大切なことだと思えます。折しも北朝鮮のミサイル「上空」通過と同じ日でした。(60代)



○戦争って何だったんだろう。その時に日本に生きていた人の数だけこの映画のようなやりきれない出来事があったのかと思うと、悲しすぎる。自分には想像しかできないけど、戦争はやりたくない。急に身近な人がいなくなるのは嫌だから。(30代)

○戦争の悲惨なこと、北朝鮮からミサイルを撃った今日の日、あらためて戦争反対と叫びたい。戦争が起きないように、死力を尽くす。平和でありがたい。(60代)

○大人になってアニメを見るのがなくなったが、ひさびさに感動した。映画は好きでよく見るが、このような作品は、また見たいと思います。(40代)

○久しぶりにアニメで第二次

大戦の呉軍港での呉市の戦争中の悲惨な光景を見て、涙あふれましたが、私の幼少のころあじわった体験からすると、まだ物足りないくらいの内容でした。(70以上)

○とっても心に残る映画でした。見に来て本当によかったです。主人公のあったかい人柄、エヘへと首をかしげるのが好きでした。当時の生活がリアルに伝わり、見ていて引き込まれました。子どもがいる私には、はるこちゃんの亡くなる場面がとても悲しかったです。主人公のスケッチが映像になっていたのもひきこまれました。(30代)



《平和を考える本》

『ジャック・デロシュの日記』

隠されたホロコースト

・ジャン・モラ作 岩崎書店



一七歳の少女エマは、敬愛する祖母が亡くなったとき、古い日記を見つけた。

聞いたことのない男性名の日記を開くと、第二次世界大戦中のナチスによるホロコーストの様子が克明に描かれていた。ユダヤ人の殺戮に疑問を持たず、淡々と日々の業務としてこなすこのジャックとは何者なのか。彼と祖母との関係は？ 自分との関わりは？

エマは過食と拒食を繰り返して、苦しみながら、ジャックが、名を変えて生きのびた祖父だったと知るに至る。そして、人として責任を取るためには、この日記を今、孫の自分が世に問うべきだと決心して、明日への一歩を踏み出した。(高田)

# 自民党改憲草案を讀む！

⑤

## 〈人権条項のつづき〉

前回は自民党改憲案の人権条項の基本的な特徴について、現憲法では国民が「個人として尊重される」としてきますが、自民党案では「個人」としての言葉を消して「人」に変えていること、そして人権全体が「公益に反しない限り」の制限を受けることなどに触れました。

個人より家族を大切に「家族条項」を新設

## 集会、結社、言論、出版の自由に規制がかけられる

今の憲法の21条「集会、結社および言論、出版の自由は、これを保障する」は自民党案では次の項が加えられます。「前項の規定にかかわらず、公益及び公の秩序を害することを目的とした活動を行い、並びにそれを目的として結社を

することは、認められない。」

これはオウム真理教事件の反省から、危険な表現活動や結社はあらかじめ規制するためなどと、言っています。何が危険として、どのような団体や活動を規制するかは時の政府の判断次第です。

## 個人より家族を大切に「家族条項」を新設

自民党憲法草案24条は「家族は、社会の自然かつ基礎的な単位として尊重される。家族は互いに助け合わなければならない。」としています。これは全く新しく挿入された条項です。今の憲法の24条は「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」と定めて

います。

戦前は「家」制度の下で、結婚は家長（戸主）の同意なしには認められず、家と家の関係とされました。妻には財産の管理権も相続権も認められず、女性は基本的に無能力者とされました。昭和12年に文部省が編纂した「国体の本義」には「我が国の生活の基本は、西洋のごとく個人でもなければ夫婦でもない。それは家である」「我が国は一大家族国家であって、皇室は臣民の宗家にましまし、国家生活の中心であらせられる」と書いています。このような「家」中心主義の戦前の価値観を否定して、家族関係を、個人の尊厳と両性の平等に基づいて再建することが今の憲法の24条の目的でした。

自民党改憲案は解説で「家族は互いに助け合わなければならない」と規定したことは「親子の扶養義務」を含み生活保護受給の制限の根拠となることを示唆しています。

## 来年にも憲法改定国民投票をねらう自民安倍政権

自民党の安倍政権は、憲法改正の発議に必要な3分の2以上の議席を持っています。この議席数のあるうちに何としても憲法「改正」をしようとしています。そのためには、今まで紹介してきた「自民党憲法改正草案」では国民の理解を得る時間も自信もないようです。そこで憲法9条に3項を加えて、自衛隊を書き込むことを一番の狙いとして、準備をすすめています。秋にはその自民党案をまとめることになっていきますが、今述べた「家族条項」を追加すべきだという意見も内部から出ています。「家族を大切にしましょう」と言えば、国民はだれも反対しない、と考えているからです。しかし、その自身は今述べたように、戦前の「家」中心主義の復活がねらいです。そのことによつて国民の人権全体を変質させ、社会をあと戻りさせることは許せません。（鈴木）